

平成 18 年社会生活基本調査 : 「総務省」

1 インターネットの利用

(1) 男性の62.5% , 女性の56.5%がインターネットを利用

図 1-1 年齢階級別「インターネットの利用」の行動者率 (平成13年, 18年)

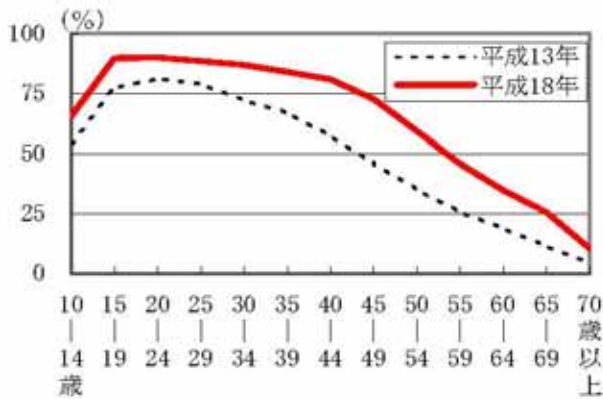
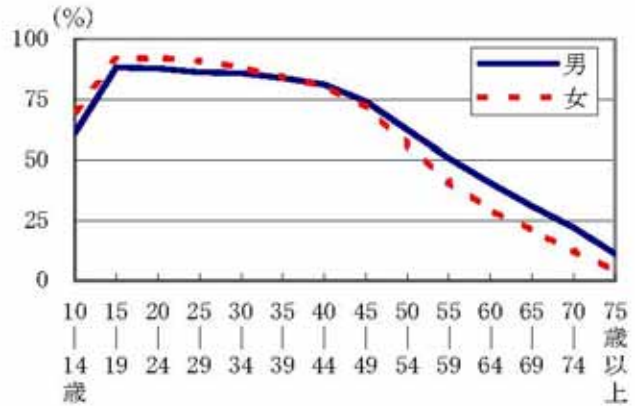


図 1-2 男女, 年齢階級別「インターネットの利用」の行動者率



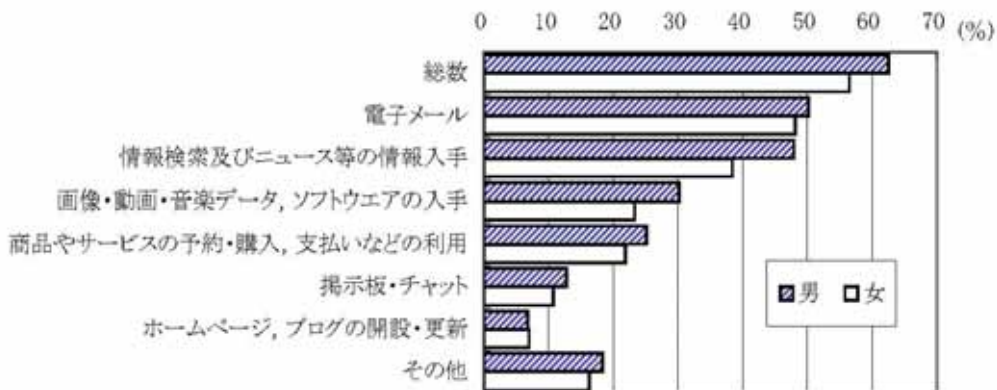
注：平成13年は仕事や学業での利用を含む。

過去 1 年間 (平成17年10月20日 ~ 18年10月19日。以下同じ。) にインターネットを利用した人 (10歳以上。以下同じ。) は6750万人で, 10歳以上人口に占める割合 (行動者率。以下同じ。) は59.4%となっている。

男女別にみると, 男性が3456万6千人, 女性が3293万4千人となっており, 行動者率は男性が62.5%, 女性が56.5%で, 男性が女性より6.0ポイント高くなっている。

(2) 行動者率は「電子メール」が49.1% , 「商品やサービスの予約・購入, 支払いなどの利用」は23.5%

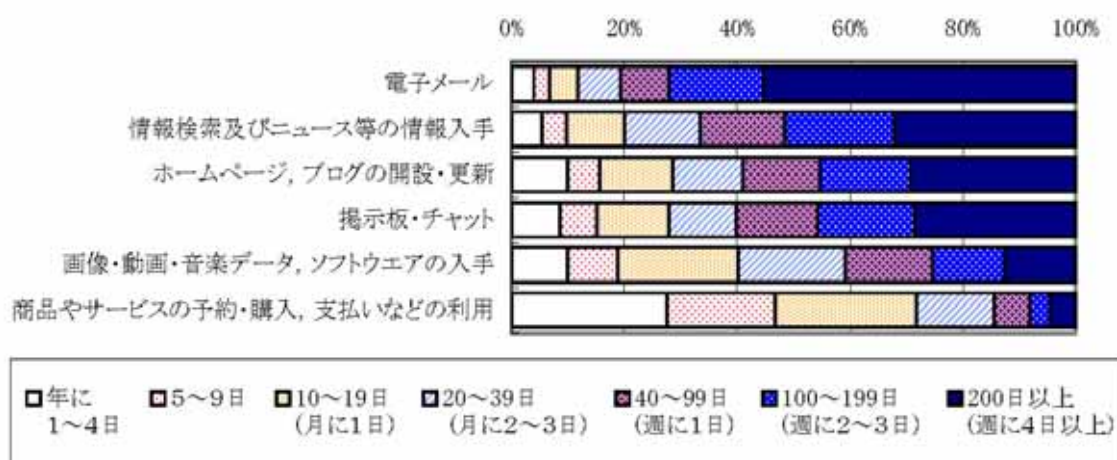
図 1-3 男女, 「インターネットの利用」の種類別行動者率



(3) 「電子メール」を利用している人の過半数が年に200日以上の利用

「インターネットの利用」の種類別に行動者の頻度別構成比をみると、「電子メール」は「年に200日以上（週に4日以上）」が最も多く、行動者の55.3%を占めている。1年間の平均行動日数をみると、「電子メール」が190.5日と最も多く、次いで「情報検索及びニュース等の情報入手」が136.0日、「ホームページ、ブログの開設・更新」が122.4日、「掲示板・チャット」が122.3日、「画像・動画・音楽データ、ソフトウェアの入手」が75.0日、「商品やサービスの予約・購入、支払いなどの利用」が32.2日となっている。

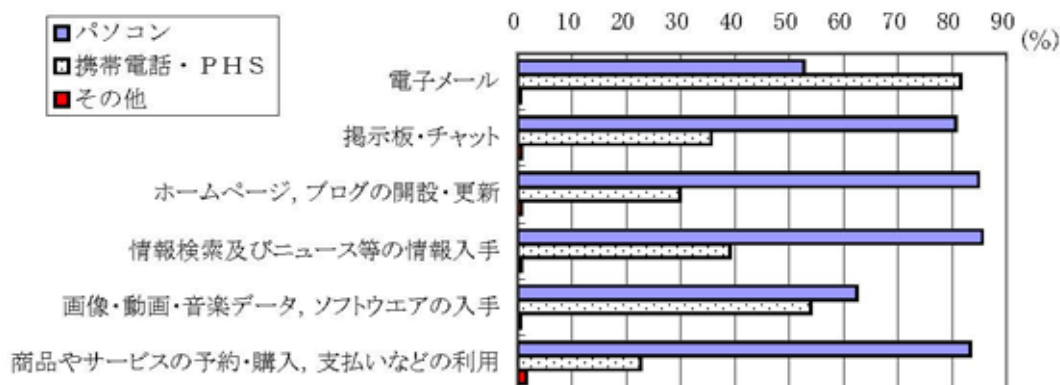
図1-5 「インターネットの利用」の種類、頻度別行動者構成比



注：頻度不詳を除く。

(4) 利用の機器は「電子メール」が「携帯電話・PHS」、ほかは「パソコン」が多い

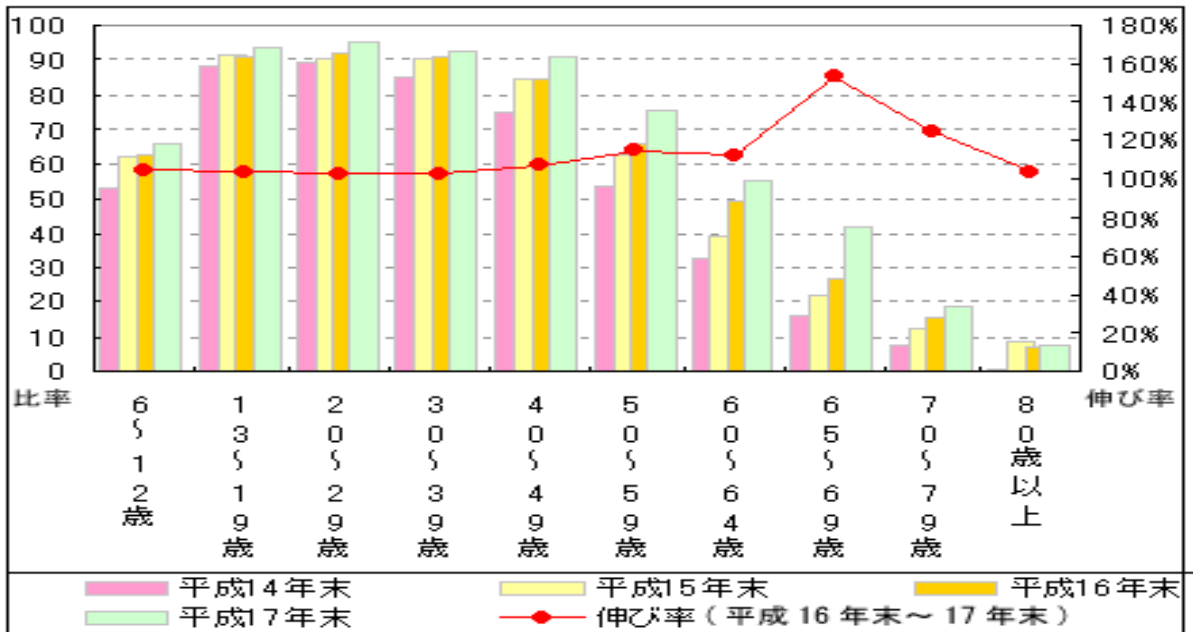
図1-6 「インターネットの利用」の種類、利用の機器別行動者割合



注：行動者割合は、種類ごとの行動者数に占める割合。複数回答あり。

「インターネットの利用」の種類別に利用の機器をみると、「電子メール」は行動者の8割以上が「携帯電話・PHS」を、5割以上が「パソコン」を利用している。ほかはいずれも「パソコン」の利用が「携帯電話・PHS」を上回っている。

(5) シニア層のインターネット利用率



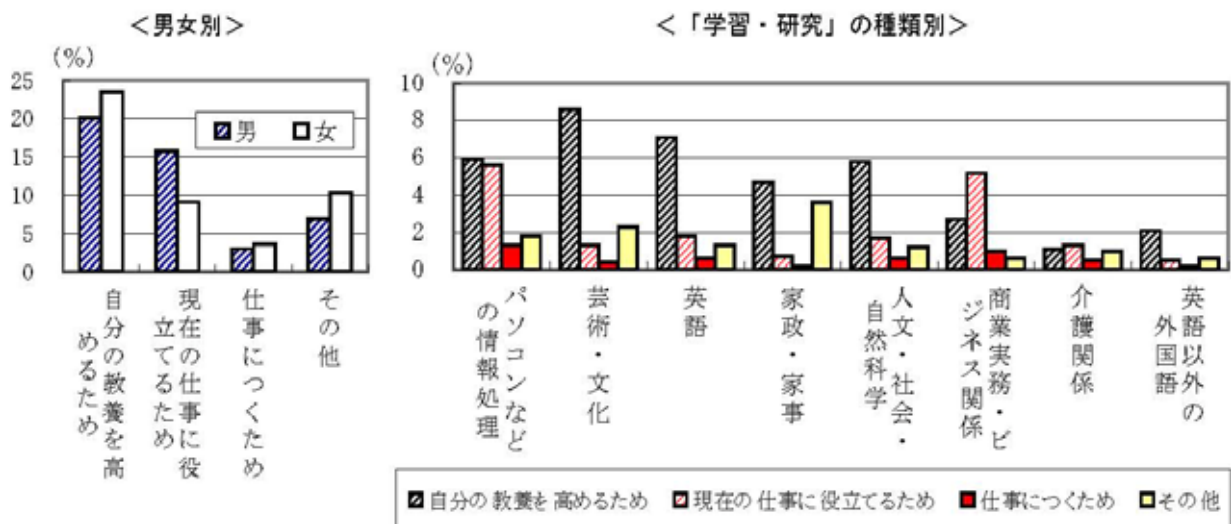
50歳～59歳のインターネット利用率は70%を超えた。

60歳～69歳も50%を「超えている

「超高齢化社会」においては、インターネットは生活の基盤をなすものと考えられる。参考ソース；「インターネット白書2006」（本）

(6) 「学習・研究」の目的は男女共に「自分の教養を高めるため」が最も高い

図2-6 「学習・研究」の目的別行動者率



注：複数回答あり。

2. ボランティア活動

(1) 1年間に「ボランティア活動」を行った人は2972万2千人，行動者率は26.2%で5年前より2.7ポイント低下

過去1年間に何らかの「ボランティア活動」を行った人は2972万2千人で，行動者率は26.2%となっている。

男女別にみると，男性が1387万7千人，女性が1584万5千人となっており，行動者率は男性が25.1%，女性が27.2%で，女性が男性より2.1ポイント高くなっている。

図5-1 年齢階級別「ボランティア活動」の行動者率（平成13年，18年）

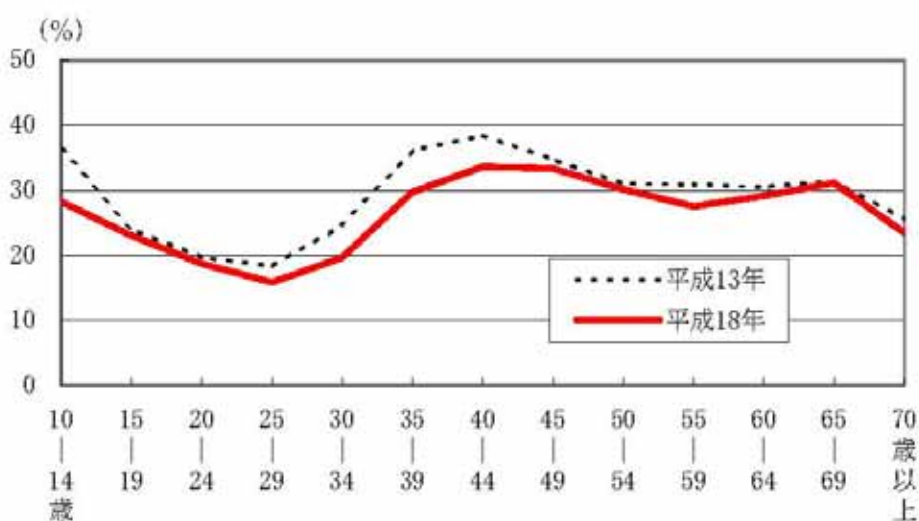
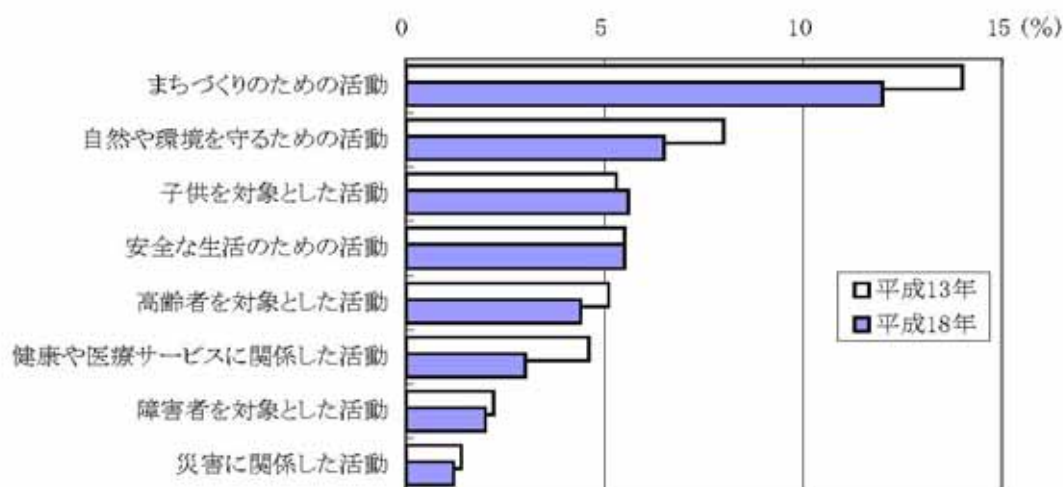


図5-4 「ボランティア活動」の種類別行動者率（平成13年，18年）



注：平成13年と比較可能な種類を表章。

3. 1日の生活時間の配分

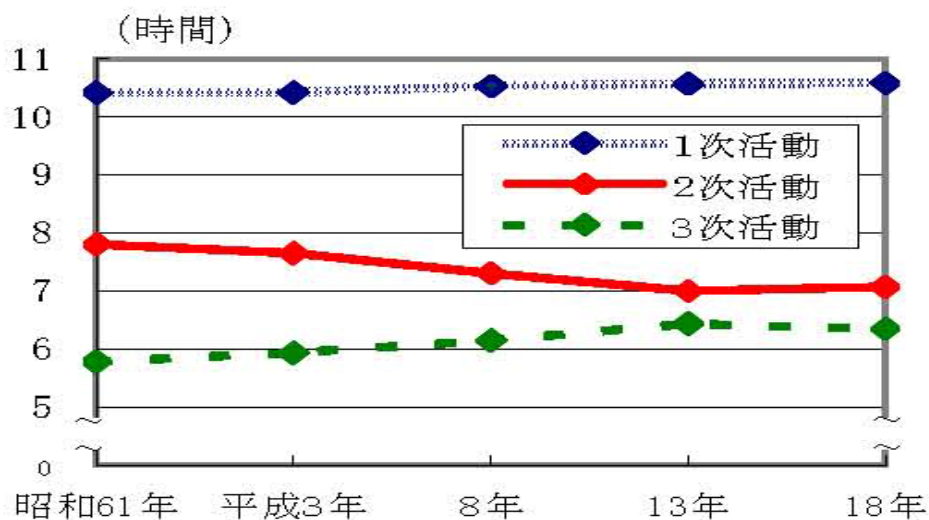
- 1 次活動..... 睡眠，食事など生理的に必要な活動
- 2 次活動..... 仕事，家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動
- 3 次活動..... 1次活動，2次活動以外で各人が自由に使える時間における活動

(1) 概観

2次活動時間は増加，3次活動時間は減少

我が国に住んでいる10歳以上の人について，1日の生活時間（週全体平均。以下「週全体」という。）をみると，1次活動1)時間が10時間37分，2次活動2)時間が7時間，3次活動3)時間が6時間23分となっている。
平成13年と比べると，1次活動時間は1分の増加とほぼ横ばい，2次活動時間は4分の増加、3次活動時間は5分の減少となっている。

図1-1 行動の種類別生活時間の推移
(昭和61年～平成18年)一週全体，15歳以上



1次活動時間，2次活動時間，3次活動時間の男女差は縮小

平日及び日曜日で2次活動時間が増加，3次活動時間が減少

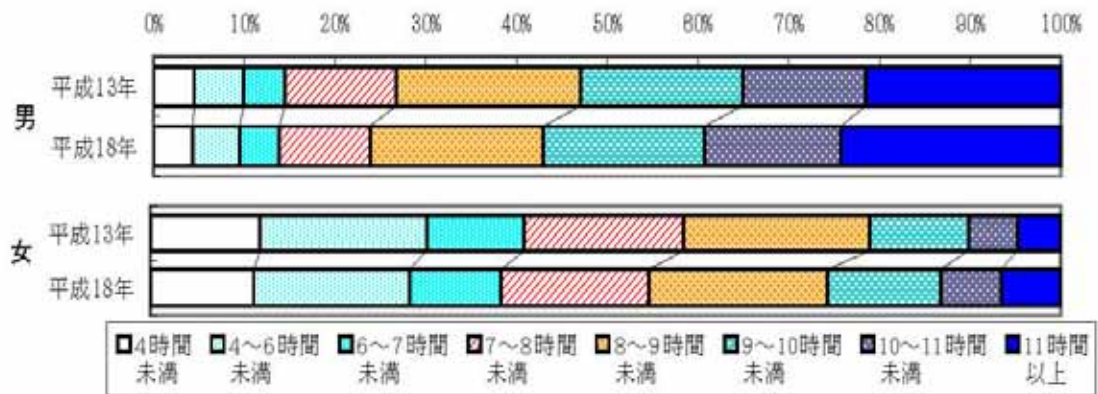
減少が続いていた2次活動時間が平成18年は増加

過去20年間の生活時間の推移を，比較可能な年齢区分である15歳以上の人についてみると，1次活動時間は増加傾向，2次活動時間は平成13年まで減少が続いていたが，18年は増加に転じ，3次活動時間は13年まで増加が続いていたが，18年は減少に転じた。

⑤平日の仕事時間は、男性の10時間以上、女性の9時間以上の割合が上昇

平日における有業者の仕事時間階級別行動者割合を平成13年と比べると、男性は10時間未満で低下し、10時間以上で上昇している。一方、女性は9時間未満で低下し、9時間以上で上昇している。（図3-3、表3-5）

図3-3 男女、仕事時間階級別行動者割合（平成13年、18年）－平日、有業者



注) 調査日に仕事をしなかった人を除く。

4. 3次活動

(1) 休養等自由時間活動

60歳以上85歳未満で男性の休養等自由時間活動の時間が女性より長く、
差が大きい

休養等自由時間活動の時間は3時間49分で、このうちテレビ・ラジオ・新聞・
雑誌に費やす時間は2時間24分となっている。

男女、年齢階級別にみると、60歳未満では男女に大きな差は見られないが、
60歳以上85歳未満の年齢階級では男性が長く、女性と大きな差が見られる。

ほとんどの年齢階級で休養等自由時間活動の時間が減少

年齢階級別休養等自由時間活動の時間（平成13年，18年） - 週全体休養等自由
時間活動の時間を平成13年と比べると、3分の減少となっており、テレビ・ラ
ジオ・新聞・雑誌に費やす時間は8分と大きく減少している。

年齢階級別にみると、55～59歳を除くすべての年齢階級で減少している。

図4-1 男女、年齢階級別休養等自由
時間活動の時間－週全体

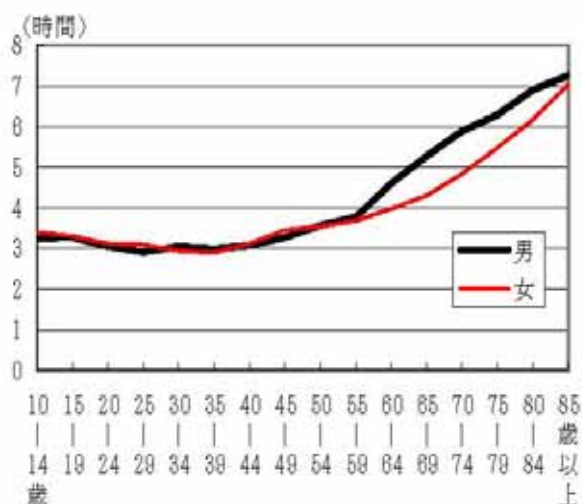
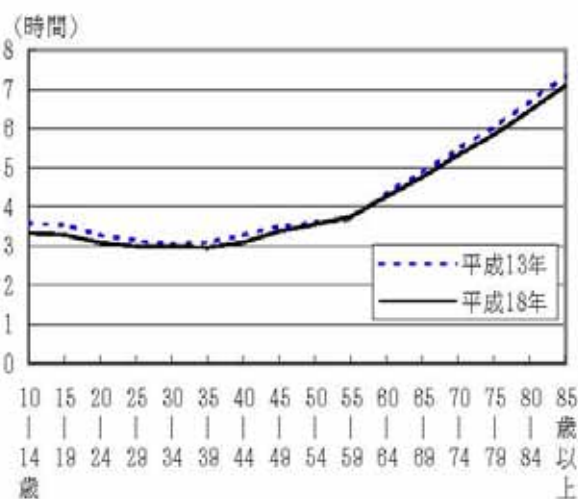


図4-2 年齢階級別休養等自由時間活動の
時間（平成13年，18年）－週全体



戻る

TO HOME